

## 市長会見の項目（概要）

と き：令和元年8月1日(木)14:00～

ところ：市政記者室

### ■ 全国学力・学習状況調査結果を受けた対応について

＜担当：教育委員会事務局 指導部 教育活動支援担当 電話：06-6208-9037＞

＜担当：教育委員会事務局 教育センター 教育振興担当 電話：06-6572-0667＞

＜担当：教育委員会事務局 総務部 教育政策課 電話：06-6208-9013＞

【フリップあり】

- ◆ 令和元年度の全国学力・学習状況調査の大阪市の結果が公表されたので報告する。
  - ◆ 昨年度の厳しい結果を受け、教育委員会では、10月より政令市15位相当を目標に様々な取組を進めてきた。
  - ◆ 小学校の算数ではその目標を達成したものの、その他では、達成はかなわなかった。
  - ◆ 昨年度は、小学校の算数A・B以外は、最下位だったが、今年度は、小学校国語をのぞくすべての教科において最下位を脱した。
  - ◆ これらの結果は、昨年の結果を受け、教育委員会と学校現場が一体となって取組を進めた結果であり、学校現場の教員や子どもたちの努力の成果だと思う。
  - ◆ しかしながら、全国との差が大きい教科もあり、大阪市の学力状況は、まだまだ厳しい状況にあると思っている。
  - ◆ 私としては、教育委員会には、この厳しい状況を克服するため、その要因をしっかりと分析したうえで取組を進め、今年度の結果を、「改善への一歩」につなげてもらいたい。
- 
- ◆ 昨年度の10月から、教育委員会がすべての小中学校と一体となって取り組んだことは、大きく二つだったと聞いている。
  - ◆ 一つは、指導主事等が全小中学校を1回程度訪問し、各種学力調査の分析や授業改善へのアドバイスをを行ったこと。
  - ◆ もう一つは、大阪市の子どもたちが苦手であった「書く力」や「数学的に考える力」に重きをおいて、教育委員会が作成した「振り返りプリント」を全小中学校で実施したとのことだ。
  - ◆ それらの取組の結果、グラフにあるように、苦手分野において、少しではあるが改善が見られている。
  - ◆ しかし、右のグラフにある「漢字や接続詞」の問題などのように全国との差が広がっているものもあり、依然として課題のある状況である。

- ◆ 一方、特定の学校を重点的に支援している取組は、「学校力UP コラボレーター」を配置し学校課題に応じて支援している「学校力UP 支援校」や、「学力向上推進指導員」が月に2回程度訪問し、きめ細かく支援を行っている「学力向上推進モデル校」などがある。これらの学校においても、先ほどの苦手分野において改善の兆しが見えており、全小中学校での結果と比べて、概ね、点数の改善幅が大きかったと聞いている。
- ◆ これらのことから、ねらいを絞って取り組めば、全市的に一定の効果があることがわかったため、教育委員会には、しぼるべきねらいをさらにきめ細かく分析し、より学校現場と一体となった、実効性のある取組を継続して進めてもらいたいと思う。
  
- ◆ 一方で、大阪市には400校以上の小中学校があり、私も視察に行ったが、例えば、日本語指導が必要な子どもたちや、放課後の補充学習を必要とする子どもたちが多い学校・エリアがあるなど、市全体では、学校・エリアごとの課題や実情が、多岐にわたっており、全市一律の対応では、大きな改善につながらないと考えている。
- ◆ 私としては、現場と一体となった実効性のある取組に加えて、抜本的組織改革を行い、教育委員会事務局を4つのブロックに分け、エリアごとの実情や各学校の状況をしっかりと分析し、きめ細やかな支援策を展開することが必要であると考えている。
- ◆ 教育委員会からは、今後、学校や地域の実情や課題に応じた支援策の実施や、学校現場にとって身近な教育委員会となり、学校と一体となって取組を進めていくような展開を図ると聞いているが、大阪市の厳しい学力状況を克服するためにも、実効性のある取組とともに、各ブロックの課題に応じたきめ細かい支援を行えるよう、4ブロック化に向けスピード感をもって進めていってもらいたいと考える。